



### 長寿園理念

「人生の目的は円満幸福の生活にある」との信念に基づき、高齢者がそれぞれ円満で幸福な生活ができるよう所要の協力と支援を行うことよって社会に貢献します。

#### 【発行】

一般財団法人長寿会

小田原市入生田 475

TEL. 0465-24-0002(代)

編集 / 広報委員会



## 最後の戦争体験者



入居者 小西信安

私は、一九二四年一月三日（大正一三年）に父親の転動先の長野県松本市で生まれた。

幼少期は愛知県名古屋市中で過ごし、その後東京都武蔵野市で育った。陸軍航空士官学校に在学中、日本は内戦が激しく飛行訓練する場所が無いため満州国（現 中国東北部）杏樹に移住し飛行訓練に明け暮れる日々を過ごした。私はこの時代には幸運なことには戦闘をすることなく、そのまま終戦を迎えた。二〇歳

だった。だが、そんな私に過酷な運命が待っていたのは、むしろそれからだった。

第二次世界大戦末期の一九四五年（昭和二〇年）八月九日末明、ソ連が日本に対し日ソ中立条約を破棄して宣戦布告。満州にいた日本兵と民間人を捕虜として強制連行したのだ。私達第二生徒隊は急遽、敦化飛行場へ移動中、捕虜の身となった。それが後に「シベリア抑留」と呼ばれるようになる。

收容所は丸太を組んで作られ、その中に一グループ二〇〇〇人程で收容されていた。收容所と

いつでも布団どころか床板すらなく、土の上に草で編みあげた敷物を掛けて寝た。石鹸なんてものはもちろん無い。どんなに汚れても顔や体を洗う事が出来ず、汚れた体のまま土の上で寝る。あまりの不衛生さをなんとかしたいと、自分たちで蒸し風呂を作った。積み上げた石の中に火で熱せられた石を置き、それに水をかけると蒸気が発生するといふもので、風呂の代わりにとまではいかなかったが、それまでと比べると、だいぶ不衛生さを改善できた。日々肉体労働を強制され、私は山の開拓に従事させられた。森林を伐採し、運ぶ。聞くだけでもどれだけ体力を使うのかは想像が出来るだろう。それだけではない。馬そ

りで川に水を汲みに行くのだが、夏はまだいい、冬は氷点下三〇度を下回る寒さになった。そんな状況でも与えられた食事は雑穀が入った黒パンと岩塩で味つけされた粟が入ったスープのみ。重労働に加え、空腹と寒さという過酷な環境下では翌日に隣で寝ていた人が亡くなっていることもあった。例え病気になってもそうだ。日本軍の軍医では薬も設備もない為、処置出来ず、そのまま死を待つしかなかったのだ。そんな死と隣り合わせの中で、私はなんとか生きる為に頑張った。それが出来たのは、故郷で私の帰りを待ってくれている母に会いたい、その一心だった。行方知らずになった息子

《次の頁へ》

を心配している母を思うと絶対生きて日本に帰ろうと自分に誓ったのだ。

過酷を極めた収容所生活を終えてから四年後のことであった。

京都府東舞鶴市に到着した船を降りると、そこでは義兄が待っていてくれた。ラヂオの「たずね人」コーナーで私の名前を聞き駆けつけてくれたのだ。長い間、会うことができなかった家族の顔に、涙が止まらなかった。人生を振り返っても、あれ程泣いたことは無かった。迎えに来た義兄も泣いていた。二人で抱き合い、男泣きに泣いた。その足で生きて帰れたことをまづ墓前の父に報告した。自宅で待っていたのは夢にまで見た母、私の生きる希望ともいえた母だった。

その後、三二歳で結婚し東京武蔵野市で新居を構えた。元パイロットを自衛隊で募集していたので定年まで勤めた。満州で

明け暮れた飛行訓練は無駄ではなかった。妻が元気な時に「私達には子供がいらないから有料老人ホームでも入ろうか」という話になり、「長寿園」と契約をした。体が元気なうちは、お世話になる気はなかったため、仕事は七〇歳まで続けた。妻が七〇代で先に亡くなり、一人暮らしにこそなったが、体はまだまだ元気だったので、ボランティアやシベリア抑留体験の語り部として活動に励み、九九歳で車の運転を辞めた頃、肋骨が骨折していたことが判明。漸く「体が元気ではない」と判断をし、終の住処「長寿園」へ入居することにした。契約から四六年の月日が経っていた。

九九年色々な事があった。それに比べ現在は穏やかな日々の中、二〇二四年一月に満一〇〇歳を迎えることができた。

九九年色々な事があった。それに比べ現在は穏やかな日々の中、二〇二四年一月に満一〇〇歳を迎えることができた。



令和6年1月100歳のお祝い

小西様は長寿園ABC棟が落成する前年の昭和五二年五八歳の時に将来のためにと、ご夫婦でご入居契約をされました。四年前の事です。当時の日本人の平均寿命は男性七四歳、女性七七歳でした。長寿園創立二三年の時でした。四六年後のご入居ですが、これも創立七〇周年と重なったのは大きなご縁と改めて歴史を感じます。

副園長 加藤翔



### 昭和52年の長寿園周辺・世の中

D棟(昭和63年完成)や、お隣の特養陽光の園さん(平成12年完成)は建設前  
新東京国際空港(現：成田空港)完成  
映画：スター・ウォーズ流行



昭和52年 長寿園航空写真 工事中



# 長寿園創立七〇周年

理事長 加藤 伸一



長寿園は四月に創立七〇周年を迎えました。これも偏に多くの皆様のご支援ご鞭撻の賜物と深く感謝申し上げます。

ところで、創立六〇周年の際には、長寿園が還暦を迎えたということもあり、大々的に各種イベントを行いました。それからまた一〇年の歳月が流れたわけですが、七〇周年は内的充実を図る年としたいと思っております。

一つの事業を継続するためには、常に社会の変化に応じて変革を遂げていかなければなりません。この一〇年を振り返ると、前半はB棟一階の九室増室工事と、五年の歳月をかけご入居者が居住したまま行ったAB棟の耐震補強化工事、後半は新型コロナウイルス感染症への対応等、いわゆるコロナ禍で過ぎてしまいましたが、そうということも

あり大きな変革をもたらすことはできませんでした。

一方、この間に起こった大きな社会的変化は多くの分野でのデジタル化ではないでしょうか。Zoom を使った会議や研修はごく一般的になりました。

ここ長寿園でも介護記録等はデジタル化されましたし、Wi-Fi(無線LAN)環境も進展し、緊急呼び出し装置等もそれらに連動したものになりました。今後の課題としてはDX化(デジタルトランスフォーメーション)ということになるかと思

います。もっともご入居者にとっては日々の生活には変化がないので全く何のことだかお解り



現在の長寿園

にならないかもしれませんが、私たちが仕事をしていく上には、欠かすことのできないものになっております。見えないところでのハイテク、電子化です。

昭和二九年四月の開設当時の写真を見

ると、現代社会とは比較にならないほどに戦前と変わらないような風景でした。父が自宅兼老人別荘を始めたのが最初ですが、四年後に私はそこで生まれ育ちました。実の祖母もいたのですが、その他に多くのおじいちゃん、おばあちゃんがい

たわけで、今から思うと私は人とは全く異なる環境で育ったわけですね。当然、明治生まれの方ばかりで、二〇代で実務を始めたころは、大正生まれの方が若いご入居者として入ってこ



昭和40年代前半の食堂 入居者は着物

れたという時代です。しかし、明治生まれの方は、もう世の中にもほとんどおられないくなり、昭和元年生まれの方が九八歳です。一方、現在のご入居者は戦後生まれの方も増えており

ます。時代の変化に対応するためにも長寿園では七〇周年を機に、幹部職員をはじめ全職員に、若返りを図っております。不慣れのためにご心配ご迷惑をおかけすることもあろうかと思いますが、ご理解ご協力のほど、お願い申し上げます。



昭和36年  
3歳の頃の私と長寿園



### 新年初顔合わせ



# 長寿園の日々

長いコロナ生活が終わり、やっとマスクを外した皆様の笑顔を見る事が出来るようになりました。これからも、沢山の笑顔を見る事ができるよう、楽しい催しを企画してまいります。  
 行事担当:相談員川上



|      |        |             |
|------|--------|-------------|
| 令和五年 | 一月一日   | 新年初顔合わせ     |
| 令和六年 | 三月二七日  | 春の行楽ショートコース |
|      | 四月二日   | 春の行楽ロングコース  |
|      | 五月二四日  | 体力チャレンジ     |
|      | 八月     | 新年会         |
|      | 十二月二五日 | クリスマス会食     |



## 新年会



## 行楽ロングコース



祝  
合格おめでとう!!

|       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 社会福祉士 | 副園長   | 加藤 翔  |
| 介護福祉士 |       |       |
| A棟生活課 | C棟生活課 | 吉澤 美和 |
|       |       | 芳野 恵  |



## 行楽ショートコース

